

令和 8 年度市長とのタウンミーティング実施結果

1 参加人数

日 時	会 場	会 場 参加人数	オンライン 参加人数
7 月 12 日（日）10 時～	曽根地域交流センター	8 人	13 人
7 月 12 日（日）14 時～	阿弥陀地域交流センター	18 人	17 人
7 月 18 日（土）10 時～	ユーアイ帆っとセンター	5 人	10 人
7 月 18 日（土）14 時～	高砂市役所分庁舎	7 人	17 人
小計		38 人	57 人
合計			95 人

（参考）令和 7 年度

地 区	会場参加人数	オンライン
生石研修センター	12 人	30 人
北浜地域交流センター	11 人	17 人
高砂市役所南庁舎	20 人	24 人
ユーアイ帆っとセンター	9 人	19 人
小計	52 人	90 人
合計		142 人

2 アンケート結果（回答数 41 件 ※オンライン含む）

※パーセントは小数点第 2 位を四捨五入

（１） お住まいの地区

高砂	荒井	伊保	中筋	曽根	米田	阿弥陀	北浜	市外	合計
6 人	9 人	1 人	1 人	5 人	2 人	15 人	1 人	1 人	41 人

（２） 参加者のご年齢

20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	合計
0 人	3 人	3 人	4 人	3 人	13 人	15 人	41 人
(0%)	(7.3%)	(7.3%)	(9.8%)	(7.3%)	(31.7%)	(36.6%)	

（参考） 令和 7 年度

20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	合計
0 人	5 人	6 人	5 人	7 人	14 人	20 人	57 人
(0%)	(8.8%)	(10.5%)	(8.8%)	(12.3%)	(24.6%)	(35.0%)	

（３） 市長とのタウンミーティングはよかったですか。（５段階評価）

悪かった 1	2	どちらでもない 3	4	良かった 5	無回答	合計
0 人	0 人	8 人	16 人	13 人	4 人	41 人
(0%)	(0%)	(19.5%)	(39.0%)	(31.7%)	(9.8%)	

（参考） 令和 7 年度

悪かった 1	2	どちらでもない 3	4	良かった 5	無回答	合計
1 人	4 人	13 人	17 人	19 人	3 人	57 人
(1.8%)	(7.0%)	(22.8%)	(29.8%)	(33.3%)	(5.3%)	

（４） 市長とのタウンミーティングの時間はどうでしたか。（５段階評価）

短い 1	2	適度 3	4	長い 5	無回答	合計
3 人	6 人	27 人	1 人	3 人	1 人	41 人
(7.3%)	(14.6%)	(65.9%)	(2.4%)	(7.3%)	(2.4%)	

（参考） 令和 7 年度

短い 1	2	適度 3	4	長い 5	無回答	合計
8 人	5 人	35 人	3 人	2 人	4 人	57 人
(14.0%)	(8.8%)	(61.4%)	(5.3%)	(3.5%)	(7.0%)	

3 各会場でのご意見（概要）

各会場で出たご意見等に対して、当日市長が回答した内容及び対応方針をまとめました。なお、対応方針は、令和8年8月現在です。

(1) 曽根地域交流センター

テーマ「これからの教育」についての意見交換

参加者	市長	対応方針
学校の適正規模について質問。児童数減少を受けて、学校数を減らしてクラス人数が増えることにより、教員の目が行き届かず、きめ細かな支援が難しくなる懸念がある。単純な人数増より質的な配慮を求める。	国から35人学級を進めていく方向性が示されている。教員数確保が困難な現状と、多様な意見交換ができる規模といった観点から、平均35人というクラス編成を考えていくのがベストと考えている。	【教育部】 現在小学校では国、県の基準により35人学級であり、中学校においても、令和8年度から3年間かけ順次35人学級を導入している。そのため、今後学校再編を行ってもクラス人数が35人から増えることはない。ただし、児童生徒数が減少しても学校数を現状のままにしておくと、学級数が減りクラス替えができなくなったり、一定数のこどもたちが切磋琢磨したり、多様な考えを理解したりしながら集団で生活し、学び合う環境を確保することが困難となる。
児童数をある程度確保することで多様性保持を図るとの説明があったが、具体的な根拠はあるか。	学年で1クラスになっている学校があり、クラス替えできない状況が今現在ある。 学年で3クラス程度あれば、学年が上がるたびに違う児童と交流できる。人間形成をしていく上でも必要であると考えている。	【教育部】 文部科学省の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き(令和8年度改定版)」に、学級数が少ないことによる学校運営上の課題が生じた場合に児童生徒へ与える影響として、「多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、時には競い合って学びを高める環境の中で意欲や成長が引き出されにくい」、また「多様な物

参加者	市長	対応方針
		の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい」といった内容が示されている。
少人数クラスなら教員の目が届きやすい。 ICT やオンライン交流を活用すれば補完可能ではないか。	他の学校との交流などは確かに可能。 ただ、少人数学級の拡大は教員確保面で難しい。大切なのは、生徒たちの学びの質を上げること。35 人学級の中で教育の質の向上を図り、多様な考え方を共有できるように環境整備を行っていききたい。	【教育部】 現在小学校では国、県の基準により 35 人学級であり、中学校においても、令和 8 年度から 3 年間かけ順次 35 人学級を導入している。1 学級あたりの人数を 35 人より少なくする少人数学級とする場合、市で不足する教員を確保する必要があるが、全国的な教職員の不足により現実的には難しい状況である。 また、このまま児童生徒数が減少し、小規模校化しても、前述のとおり、教員の目が届きやすくなるわけではない。ICT 等で補完することは可能だが、高砂市としては、実際に一定数の子どもたちが切磋琢磨したり、多様な考えを理解したりしながら集団で生活し、学び合う環境を確保することが重要であると考えます。 事情により通常の教室で受講することが難しい児童生徒に対し、同一学校内の別教室や各家庭から授業に参加できる遠隔教育を各校で実施し、学びの機会を確保している。各校に教室全体を撮影できるカメラが搭載された電子黒板によって、別室にいる児童生徒からも教室の様子を把握しやすく、教室内の

参加者	市長	対応方針
		ライブ感を共有できる環境が整っている。
高砂小・中学校を一体化して全市的に始めるという話だったがまったく進んでいないので、スピード感をもって進めてほしい。 地域の枠組みを外して、弾力的に統廃合を考えて欲しい。 はやく 9 年制に移行してほしい。	小学校、中学校 9 年間の教育環境をどのようにしていくのか、また、地域の方々にも入って来ていただけるような環境整備など、順番に整備をしていきたい。 地域の方々だけではなく企業の方々にも入ってきていただくことで、こどもたちの主体的に学ぶ力、自分と他者との考え方の相違を学んでほしいと考えている。	【教育部】 現在、新たな学校づくり推進計画を検討しており、昨年度末に示した計画の方向性には、新しい時代の学びに対応した教育環境の整備を掲げ、小学校及び中学校の再編にあたっては、各々の学校規模を確保した上で、小中一貫教育の推進が図れるよう検討するとしている。 この方向性を踏まえ、今年 9 月以降に再編案を複数ご提示して、市民の意見をいただきながら案を作成する予定である。 カリキュラムや指導方針については、各中学校区ブロックで小中学校が一体となって、カリキュラムを作成したり指導方針を揃えたりしている。 地域や企業と連携できるように、学校運営協議会や高砂 STEAM 教育ライブラリーの体制整備を進めている。
公共施設が老朽化している件。コンクリートはきちんとメンテナンスすれば 100 年ぐらいもつはず。雨水が入って中性化してボロボロになるのは塗装が悪い。入札のときから管理できるような組織・システムを作ればもっと長持ちすると思う。	現在包括管理による点検・維持を強化中である。ただ、抜本的に建て替えを要する学校施設もあり、早急に進めなければいけないところは早急に進めていきたい。	【政策部】 ご指摘のとおり、本市の公共施設は老朽化が進んでおり、防水機能の重要性は承知している。市では、公共施設マネジメント室を設置し、適正に施工監理を行い包括管理委託による効率的な点検および維持管理(メンテナンス)を行っている。今後も定期的な点検を通じて施設の状況を把握し、技術的判断のもと適切に維持・改修をするよう

参加者	市長	対応方針
		に取り組む。
教育施策の参考として、他自治体の先行事例や先進的な学校空間づくりの紹介をしていただければ、理解度が上がると思う。また、高砂市が初めてになる事例があれば、市民にとっても魅力に感じると思う。	県外視察や先行例の収集を積極的に行い、高砂市の事情に即した形で導入検討をしている。	【教育部】 新たな学校づくり推進計画の検討にあたっては、他自治体の先行事例も参考にしながら進めている。市民への意見聴取の際には、ご紹介したいと考えている。

フリートーク

参加者	市長	対応方針
地域活性化策の一つとして、道の駅や温泉施設の誘致・設置を提案する。阿弥陀に作れば、ハイキング帰りに温泉に入ったりして、家族連れに宿泊してもらえるのでは。クラウドファンディングの利用などもしてはどうか。	行政だけでなく民間と協働が必要で、財政的制約もあるため、具体化は難しいが意見は受けとめる。 クラウドファンディングなどの手法についても研究させていただく。	【政策部】 道の駅については、平成 28 年～令和 2 年頃に検討した結果、道の駅の設置と維持は困難と判断し、今も同じ認識である。 ご提案の設置手法については将来的に運営が維持できる事業者の有無等を含めて研究する。
車を持っていないので、図書館に行くのにはじょうとんバスを利用するが、バスの時間を気にすると 1 日費やしてしまう。他市のように分館を置くなど、利便性の高い図書館整備と同時に、図書館の中に書店やコンビニを設置するなど、市がお金を使わなくてもできる方法で活性化してほしい。	先進事例を参考にしつつ、市民意見も伺いながら複合施設のあり方については検討を進めたい。	【教育部】 先進事例を参考にしつつ、市民意見も伺いながら複合施設のあり方については検討を進める。
高砂市は待機児童「ゼロ」とうたっているが、希望する園に入れなと言われて。事前に相談していたにも関わらず十分な事前説明がなかった。 こどもが複数いる場合、異なる二つの園に毎朝送迎するのは、仕事をしながらでは不可能。	説明の不足を謝罪。 担当部署へ伝え、対応の検討をさせていただく。	【こども部】 待機児童「ゼロ」は数値上は正しいものの、「希望の園に入れな」といった実態が存在しているのも事実である。すべての保護者の希望どおりに入園できることが理想だが、限られた受け皿のなかでの対応には限界もあ

参加者	市長	対応方針
実態に即した育休復帰枠の創設、地域のニーズに合わせた保育環境の最適化を強く求める。早急に対応してほしい。		る。可能な限り多様なニーズに対応できるよう、利用調整を丁寧かつ柔軟に行っていく。
市内に書店が 2 軒しかない。これだけ書店が少なくなっているのだから、市も書店とコラボして市民が本にじかに触れられる機会を作っては。	(意見のため回答なし)	【生活環境部】 書店の新設促進については、空き店舗等活用支援事業補助金や創業者融資保証料補助及び利子補給金、中小事業者キャッシュレス・DX化支援事業補助金などの活用が考えられる。 書店に限定した補助ではないものの、市民生活の向上につながる出店や創業の促進に繋げていく。
教育の現状把握に不可欠な、全国学力テストの詳細な結果のデータ公開を強く要望する。	教育部でどういった点が情報公開として不足しているのか確認し、調整したい。	【教育部】 市役所窓口で学力分析リーフレットを配架し、各校にもリーフレットを保護者向けに配布した。市 HP においてもリーフレットを掲載している。令和 8 年度の結果についてもよりよい情報公開となるよう努めていく。

(2) 阿弥陀地域交流センター

テーマ「これからの教育」についての意見交換

参加者	市長	対応方針
阿弥陀地域でこども食堂を運営している。こどもだけでなく多世代が集える居場所づくりを目指している。学校などの施設使用を希望するが、利用制約が課題。阿弥陀地域交流センターを含む全地域の地域交流センターの設備改善（ガスがすぐ消える、水道を出すと音がするなど）を求める。	こども食堂の運営への尽力に感謝。 学校を開放するという考えのほか、教育の現場だけでなく、地域交流センターで地域とのつながりをまず作るという環境整備の中で、こども食堂の運営もどういった形でできるのか、検討を進めていきたい。	【教育部】 現在の学校施設をそのまま開放することは、安全管理において課題があると考え。 大規模改修・施設更新の際にはそういった課題を最小限にして、開放できるよう検討する。 【協働部】

参加者	市長	対応方針
	施設の老朽化の話もあるが、阿弥陀小学校は市内で最も新しい小学校なので、どのような形で複合的なことができるのか、今後検討していく。 ほかの地域のこども食堂についてもおそらく同じような状況であろうかと思う。地域交流センターの設備老朽化についても調査を行い、予算や優先順位課題はあるが、対応していきたい。	地域交流センターの設備については、適時適正な点検を行い、計画的に更新していく。
表面化しにくい SNS によるいじめ、相談しにくさから不登校になる子も多いと思う。 他県で導入しているような警察 0B などを活用した第三者機関での相談・対応体制整備は考えているか。	第三者機関、スクールサポーターという形での警察官の配備は現在未整備。いじめ発生時は迅速に対応する体制を整備したい。	【教育部】 第三者機関、スクールサポーターという形での警察官の配備は現在未整備だが、青少年センターに警察 0B を 1 名配置しており、相談体制を整えている。今後も周知を図っていく。
こどもが「たかさごっこ結っくりん相談」のチラシをもらってきた。こども自身が LINE や電話で悩みを相談できる画期的な方法だと思ったが、利用後の対応フローが不透明で不安。相談後の市の具体的な対応方法を明示してほしい。	細かな流れは今私では回答できないので確認したい。 相談ごとに対しての適切な処理、相談内容が十分に解決できるように進めていきたい。 （教育部長補足） 結っくりん相談については、こども部こども窓口課で相談を受けた後、相談内容によっては教育部・教育委員会につないでいただき、状況によっては福祉部門などさまざまな部署に対応をつないでいくという形をとっている。	【こども部】 たかさごっこ結っくりん相談の中で、3 通りの相談方法について案内している。 ①直接会って相談する。 ②LINE や SNS 相談 ③電話相談 ①は、こどもまどぐち課職員が相談希望者と日時場所を決め、直接会って対面で相談を受け付け、相談内容によって必要な支援等につないでいる。 ②は、兵庫県が実施する「親子のための相談 LINE」や「ひょうごっ子 SNS 悩み相談」を案内している。 ③は、法務省「こどもの人権 110 番」や児童相談所虐待対応

参加者	市長	対応方針
		ダイヤル「189」、兵庫県の「ひょうごっ子悩み相談」、市のこどもまどぐち課の電話相談を案内している。
こどもの、タブレット持ち帰りの重さや視力低下への懸念。オープンスクールのときに学校に行くと、短い休憩時間は皆タブレットに入っているタイピングゲームをずっとしていた。タブレット使用に対する注意、健全な使い方など指導をお願いしたい。	学校で注意喚起は実施していると思っている。 家庭でも遠くを見る習慣をつけていただくほか、学校現場でも指導をしていきたいと考えている。	【教育部】 持ち帰り時の負担について、学校において教科書の持ち帰り量を調整するなど、端末追加による登下校時の身体的負荷が増えないよう配慮している。視力低下については、画面との適切な距離や適度な休憩といった視力低下防止策、休憩時間の望ましい過ごし方に関する指導を各校で徹底していく。端末にはブルーライトカットのフィルムを付けている。タブレットの不適切な活用についてはフィルタリング機能を使って常に調整を行っている。ただ、タイピングについては情報活用能力の抜本的な向上を目指すという国の指針もあり、通じて伸ばしていきたい力の一つと考えている。
携帯電話を小さい時から扱う子もいるが、こどもの健康に与える影響をお母さん、お父さんに指導してほしい。	子育ての部署でも情報提供はしていると思うが、こどもたちの興味が強く、携帯を見てしまうこともあると思う。家庭でのルールを設けて健康管理に努めてもらいたい。市としても周知の仕方を考えていきたい。	【こども部】 乳幼児健診にて、赤ちゃんの頃からスマホ等との付き合い方が書かれたパンフレットを設置し情報提供をしている。
学校の冷暖房設備は全教室完備か。 東京の小学校の火災事件を受けて消火設備のチェックや避難訓練の強化を希望。	小・中学校の一般教室・体育館は冷暖房完備。特別教室は進めようとしている段階。 先般発生した火災事件を受けて、すぐに消防本部と連携し、全校の	【教育部】 小学校の校舎は普通教室や職員室などの管理系諸室に冷暖房設備を整備している。 中学校も同様だが、加えて現在

参加者	市長	対応方針
	点検と避難訓練の徹底を指示済み。消火器の位置や避難経路に支障がないかも確認している。	特別教室に冷暖房設備の整備を進めている。 消火設備については、定期的に法定点検を実施し、改善を要する箇所があれば適宜対応している。 避難訓練も例年全校において実施しているが、改めて火災予防対策及び避難管理体制の一層の強化を図るよう情報を共有していく。

フリートーク

参加者	市長	対応方針
老人クラブで地域交流センターを毎月利用している。阿弥陀地域交流センターの備品の長机をコマつきに変えてほしい。センター長にも相談している。	備品に関しては関係部署に指示し、他の地域交流センターの状況も調査しながら早急に対応していきたい。持ち帰り、検討する。	【協働部】 部屋の利用状況や備品の老朽状態、収納状況など実態を検証し、必要に応じて更新していく。
自治会役員として今日まで各部署にさまざまな要望を伝えたが、担当職員が親身に対応してくれ、フィードバックもしてくれて感謝している。これも市長や上司の指導の賜物と評価している。 一方で、今後は施策推進にスピード感を持ってほしい。JR 曾根駅周辺整備には、昭和 62 年の阿弥陀町連合自治会からの陳情提出から始まり 37 年もの長い時間を要している。我々はこの事業の完遂の先にある周辺地区のまちづくりに大変期待を膨らませている。スピード感をもって事業計画を進めていただきたい。	JR 曾根駅周辺整備はここ数年で進展し、令和 10 年に自由通路供用開始予定。周辺整備を進め若い世代の定住促進を図る。スピード感を持って事業を推進していく。	【都市創造部】 JR 曾根駅周辺整備は、令和 10 年に自由通路の供用開始を予定しており、駅前へのアクセス改善をはじめとした施策を含めて、行政と地元住民が一体となって取り組んでいます。今後も地元住民との対話を重ねながら計画を進め、若い世代の定住促進を図ります。

参加者	市長	対応方針
阿弥陀の公園墓地の整備不足 (トイレ、道路状態、木の枝の落下など)について。チェックと早期改善を要望。	市議会議員からも指摘があり認識済み。道路、水道、トイレ等の整備の必要性を把握している。予算を確保し早急に改善を進めたいと考えている。	【生活環境部】 木の枝については、日々の巡回等から、情報収集し、危険性の高いものに対しては、早めに対応していきたい。 その他設備については、必要な整備を今後進めていきたい。
バニラ VISA カード(物価高騰対策のプリペイドカード)の現場利用がスムーズでなく、利用者や店舗の対応スタッフのストレスが大きい。使い勝手の改善を求める。	物価高騰対策として必要性を検討し実施した。利用時の困難点は承知している。 今後、国から同様の対応の指示があったときには、これまでの経験を積んだ中で市民にとって便利のよい対応を模索し改善を進めたいと思っている。	【政策部】 物価高騰対応策として、額面をできる限り高く設定できるよう、事務費を抑え、インターネットでも対面でも使えるよう、使い勝手には極力配慮したが、様々なお声があることは承知している。 今後、同様の事業を実施する場合には、このたびの実施結果を踏まえ検討する。
こども食堂の運営に関して。さきほど、学校はこども食堂などに開放 OK ということだったが、阿弥陀こども園のホール利用は土曜日も授業があるため不可と言われた。学校利用と園の対応の違いに納得はしつつも残念。	市として全体での最適を目指し、柔軟な対応を検討していく必要があると思っている。多様なニーズに市としてどこまでできるか検討する。制約もあるが、できるだけ寄り添った対応を進めたいと考えている。	【教育部】 現在の学校施設をそのまま開放することは、安全管理において課題があると考えていることから原則開放はしていない。大規模改修・施設更新の際にはそういった課題を最小限にして、開放できるよう検討する。 【こども部】 こども園は土曜日も保育が行われており、その運営との兼ね合いが必要なため、自由に施設を開放できない状況である。また、学校の体育館は独立した施設として貸館利用も可能であるのに対し、こども園の遊戯室は園舎の一部であり、独立した貸館利用を想定していない。

参加者	市長	対応方針
		そのため、学校利用とこども園利用の違いについては運営形態の差によるものとして、ご理解いただきたい。
こどものスマホ利用のリスクは保護者に十分知られていない。前頭前野の破壊、精神疾患・自殺率増加などの影響もあるので、保護者への説明機会を設けてほしい。	スマホの利用の仕方、SNS についての注意喚起については、約 3 年前に高砂市こども連絡協議会で講師を招き講習会を開催する機会があった。今後も保護者、こども向けに利用の注意喚起や指導を考えていきたい。	【教育部】 毎年各小中学校において、ネットトラブル防止講座を実施しており、保護者の参加を呼び掛けている。引き続き、こどもへの指導だけでなく、保護者への注意喚起を行っていく。
小学校の影響力は大きいと思うので、タブレット端末支給時に視力悪化対策や注意事項を先生からこどもに伝える指導を学校で徹底してほしい。	学校現場では利用時の注意指導を既に行っていると思っている。こどもの視力保護のために学校現場からも指導を徹底していきたい。	【教育部】 画面との適切な距離や適度な休憩といった視力低下防止策、休憩時間の望ましい過ごし方を含め、端末の「健全な使い方」に関する指導を各校で徹底していく。また、タブレット端末にはブルーライトカットのフィルムを付けている。
小さなこどもの動画視聴習慣に不安。注意喚起の強化を望む。 2 人目のこどもが生まれてくるにあたり、育休をとったら今こども園に通わせている上のこどもが退園しないといけなくなる。こども園には大変お世話になっており、成長にも寄与していただいております。これからもお友達と仲良く引き続き通ってほしいと思っている。育休中のこども園退園の規定の見直しも検討してほしい。	子育てしやすい環境づくりを市として考えていきたいと思っている。 今のご意見に対し、対応できる部分とできない部分があるかもしれないが、前向きに検討していくように、指示させていただく。	【こども部】 乳幼児健診にて、赤ちゃんの頃からスマホ等との付き合い方が書かれたパンフレットを設置し情報提供をしている。 育児休業中であっても、下の子が満 1 歳になる年度末までの間は、家庭の状況にできる限り寄り添い、通園が継続できるよう配慮している。一方で、保育の必要性が高い家庭への支援も大切であり、限られた施設の資源をできるだけ公平に配分できるよう努めている。今後のより良いサービス提供に向けて慎重に検討していく。

参加者	市長	対応方針
市が財政的に厳しいのであれば、クラウドファンディングなどでの資金調達も検討してはどうか。	さまざまな手法を市としても検討したい。企業からの寄附も年に何回かあり、感謝している。行政としても工夫しながら市民のために何ができるのかを常に考えて進めていきたい。	【財務部】 ふるさと納税制度を活用し、公共事業や地域振興などを目的とした資金調達として、ガバメントクラウドファンディングという手法を用いている自治体があることは認識している。今後は金額の多寡にかかわらず、あらゆる歳入の可能性を検討しながら、市税等の収納率向上、ふるさと納税制度の活用及び債券運用などにより、一層の財源確保に努める。

(3) ユーアイ帆っとセンター

テーマ「これからの教育」についての意見交換

参加者	市長	対応方針
企業と学校の連携について、工場見学やトライやるウィークなど具体的な取り組みはあるか？ こどもと親と一緒に工場見学、たとえば(ごみの焼却場など)をし、実際の現場を見ることで学びや発見があるのではないか。	企業と学校の連携は進んでおり、企業側が学校に赴く機会もある。トライやるウィークは数十年続いている。環境学習も含めて企業の特徴的な学びを提供し、こどもたちの将来の地元定着や職業意識向上を目指している。 エコクリーンピアはりまの見学者も増加している。 その他企業への見学は、企業と行政の連携の中で将来考えていく必要があると思っている。	【教育部】 市内小中学校において、企業や大学、高等専門学校、地域団体等と連携した授業や体験活動を実施している。また、学校と地域をつなぐ仕組みとして「高砂 STEAM ライブラリー」を整備しており、産官学民との連携をさらに深めながら、高砂 STEAM 教育の充実を図り、子どもたちが地域の課題や魅力に主体的に関わり、将来の高砂を支える人材として成長できるよう取り組みを進める。
学校教育について、宿題が多く、特に長期休暇の宿題にこどもは負担を感じている。宿題の量を見直し、こどもたちが伸び伸びと学べる環境に配慮してほしい。	いただいたご意見は教育部に伝える。 今後、探究学習の中で興味を持って自ら進んで理解していく学びの促進が必要と考えている。	【教育部】 宿題量については、各学校において児童生徒の実情に合わせて柔軟に設定している。探究的な学びの推進に合わせた家庭

参加者	市長	対応方針
		学習の在り方、児童生徒の実情に合わせた家庭学習の量となるよう各学校に促していく。
少子化で空き教室が増えている現状について。 空き教室をどのように利用するのか。	空き教室については学校ごとに状況が異なるが、普通教室での授業を望まれる障がいのあるこどもに対応できるよう整備などしている。 地域との連携も含め今後の施設活用を検討していく必要があると思っている。	【教育部】 現在空き教室では、学年間の学びや、面談スペース、クーリングスペースなど多様に活用している。また、特別支援学級の増加にも対応している。 今後については、空き教室ではなく多目的教室・スペースとし、各教室だけを学びの場として完結することなく、多様な学びの場として活用していきたいと考えている。
高砂小・中学校の教育現場へのAIの導入について新聞で見た。 全校導入の計画や、AIを使いこなせないこどもへの配慮はあるか。	AI 教育は国の予算で試験的に実施中。 タブレットを使った授業では、サポート体制も整えている。AI 活用は将来社会に出ていくまでに必要なことだと考えている。こどもたちにわかりやすい授業提供をしていくのがこれからの教育の在り方と思っている。 全校導入については、効果や必要性を見極めながら進める予定。	【教育部】 令和 8 年度より文部科学省の「生成 AI パイロット校事業」に参加し、教職員の活用能力向上や効果的な活用方法の検証に取り組んでいる。市内各校への導入は段階的に進めており、現在はパイロット校だけでなく、他の小中学校においても先行的に活用を広げている。生成 AI の操作や活用に慣れていない教職員や子どもたちに対しては、各校に配置している「ICT 支援員」と協力しながら、一人ひとりの習熟度に応じた丁寧な伴走支援を行っている。
教育現場で生徒の多様性に配慮し、習熟度別や興味関心に応じた学びができる仕組みが望ましいと思っている。	義務教育には一定のカリキュラムがあり、それ以上の学びを必要としている場合は塾へ行くなどの対応をしている家庭があると思っている。 義務教育の中で学ぶことは大変	【教育部】 知識や技能を習得する一斉学習だけでなく、一人一人の進度に合わせて自分のペースで学ぶスタイル(個別最適な学び)やたくさんの人と対話して、共に考

参加者	市長	対応方針
	重要だと思っており、探究的な学びをすることで、将来の進路選択につながる多様な学習機会を提供していきたい。	え合って学ぶスタイル(協働的な学び)を取り入れる授業を行っている。また、自分で考えたり他と学び合ったりして、主体的に課題を解決する探究的な学びも推進している。
少子高齢化で若い子育て世帯が減っている問題。地域の高齢者の労力を活用するなど、有志が子育ての手助けをできるようなシステムができたらいいと思っている。	地域の方々の思いと学校側の思いのマッチングができるのかどうか、行政側がどこまで地域の方々をお願いできるのかを模索中。地域の方々が学校に入ってきてやすい環境をまず作り、子ども達にとってよりよい教育現場を進めていくことができればと思っている。 モデル事例を作りながらメリット・デメリットを検証しつつ、皆さんにもいろいろご意見をいただきたいと思っている。	【教育部】 各学校では学校運営協議会を設置し、地域と学校がともに行う活動が増えてきている。今後、地域と学校の思いをマッチングできる仕組みを検討していきたい。

フリートーク

参加者	市長	対応方針
山陽電鉄高砂駅の発着音について。 批判ではないが、個人的には音がしけて聞こえた。もう少しなんとかならないか山電に伝えておいて欲しい。	商工会議所副会頭時代に山陽電鉄と協議して導入したもの。高砂高校のジャズバンド音楽を地域イメージアップとして活用。地域には好評。 意見を伝える。	山陽電鉄への意見のため回答なし
文化会館前の道路で枯草が多い。出初式やはたちのつどいの式典の際は特にもう少しきれいにしてほしい。通学路でもあるし、治安面も心配。地域の人や、シルバー団体も清掃に取り組んでいるが追いつかない。 返事は不要。	市としては区別されている管理範囲があるが、住民と協力しながら環境整備を進めていく。	【都市創造部】 除草委託業者と実施時期の協議を行い、イベント時の周辺環境整備を図る。文化会館の北側の道路については、県道区域でもあるため、今後兵庫県加古川土木事務所と協議を重ね取り組んでいく。

参加者	市長	対応方針
私は他市へも意見をよく出すが、費用対効果でできません、といった返事が多い印象。 高砂市は他市と比べて財政力は豊かか？	将来に向けての公共施設の整備、少子化対策、福祉事業などを行う必要があるので必ずしも豊かとは言えない。兵庫県の財政が大変厳しい状況であるという報道があるが、それを教訓にして、予算立てや、税金の使い方の重要性を認識しながら、政策を考えている。将来あるべき市の姿を描きながら進めていきたいと思っている。	【財務部】 本市の財政力指数は県下8位、償還金の割合を示す実質公債費率も県下6位(どちらも令和6年度決算)で財政基盤を築いてきている。一方で将来に向けて市民病院の費用負担や公共施設の大量更新を控えている中で、更に物価上昇リスクが不確実性を一層高めており不安要素が多く厳しい状況が想定される。今後は更なる財源確保と事業の効率化を進め、持続可能な財政運営に向け取り組んでいく。
過去の設備投資が財政悪化の原因か？ 市役所の建て替えにお金がかかりすぎたのかなと思っていたがそういうわけではないのか？	庁舎建替えは耐震性確保が目的で実施し、財政に大きな悪影響はないと認識している。 前市長時代には大雨や台風の治水対策に多額投資してきた。今後も行っていく将来に向けての大きな投資は、財政への影響は多少あるが、計画的にバランスを見ながらさまざまな施策を進めていきたい。	【財務部】 必要不可欠であった庁舎の建て替えや治水対策など、大きな投資となったが、安心・安全なまちづくりに向け事業を進めた。なお、庁舎と治水対策に係る財源は、国からの財政支援(地方交付税措置)の対象となる有利な市債を活用し、財政悪化を抑えることができた。 今後は公共施設やインフラ更新を控えており、この更新への投資に当たっては、将来的に財政悪化の要因となる可能性がある。今後は更なる財源確保と事業の効率化を進め、投資と財政の持続可能性のバランスを図り、計画的に施策を進めていく。
私は生まれ育った高砂が好きである。ここに生まれ育って良かったと思っている。	総合計画の中でも幸福度を感じていただけるまちづくりを進めようとしている。	意見のため回答なし

参加者	市長	対応方針
	住んでよかったなと思ってもらえるまちづくりをしていくことで、対外発信し、来てもらえた時にもよかったなと思ってもらえるまちを作りたい。また、感動も与えていきたいと思っている。	
無理に観光化しなくても「ここに来たらほっとするまち」という、他にない魅力が高砂にはあると思っている。こういうところで子どもさんにのびのびと育て、羽ばたいてほしいと思っている。	今回、教育をテーマに行ったが、地域とともにある学校づくりということで、子どもたちだけではなく、地域の方々が一緒になってまちを楽しんでもらえるような環境整備をしたい。 希薄なつながりではなく、和やかな環境で、子どもも一緒になって地域で育てていけるような政策を行っていききたいと思っている。	意見のため回答なし
東播磨地域のマスコットキャラクターを通じた地域間コミュニケーションや盛り上げも良い取り組みだと思う。 ぼっくりんポロシャツは綿 100% にしてもらいたい。	ぼっくりんは子どもたちや市民に親しまれている。市民にキャラクターを大事に育てていただいていることを嬉しく思う。 ぼっくりんポロシャツは、今後素材改善なども検討する。	【政策部】 ぼっくりんポロシャツを評価いただきありがとうございます。約 12 年前に職員有志から始まり、現在、高砂市観光交流ビューローで製作、販売を行っている。ご購入者からの意見としてビューローへお伝えする。

(4) 市役所

テーマ「これからの教育」についての意見交換

参加者	市長	対応方針
人生 100 年時代における生涯学習の重要性を指摘。 特に高齢者大学の運営方針変更（単年度制への変更）について説明や意見交換が不足していると懸念。4 年生制から単年度制への移行で学園祭などの活動が困難になる問題を改善してほしい。単年制で	生涯学習の必要性を認識している。高齢者大学や小・中学校、地域交流センターで生涯学習の場としてこういった内容ができるかということも、市民と意見交換しながら進めたい。 高齢者大学の単年度制導入につ	【教育部】 学生数の減少が続いており、運営方法の見直しを検討した結果、令和 10 年度より単年制に移行することになった。継続して学びたい人にも考慮したカリキュラムの編成など単年制に向けた検討、準備を進めていく。

参加者	市長	対応方針
はなくせめて 2 年制にしてほしい。制度変更について、学生に事前説明がまったくなかった。学生や OB の意見を聞かず上から勝手に決められたと理解している。	いては、家庭の事情で 4 年間在学できない状況の方が増えてきているということも聞いている。協議会の中で意見交換をして決定したと聞いている。 学園祭などの発表会については、OB の方と連携をしながら今後議論・検討していきたい。 担当部署にも話をして、高齢者大学の方々と市がきちんと意見交換をしながら、運営方法・望ましい形について議論したい。	松陽学園クラブ同好会協議会が設立され、学園祭については同協議会が中心になって企画、運営されると考えている。 今後も同協議会とも連携し、高齢者大学の円滑な運営に努めていきたい。
高齢者大学や高齢者事業の目的・成果(アウトカム)について明確化を求める。 高齢者大学は手段なので、なんのためにやっているのか、目的をお聞きしたい。	高齢者大学は、生涯学習の場として個人の趣味を生かしたり、違うものに触れる学びの場と認識している。今まで自分ができなかったことをしたり、交流など、広い意味での教育の場であると思っている。個人のレベルアップという点でも大変有効な場所であると考えている。 今後も学園内での改革や新たな取り組みを市として協力したい。	【教育部】 高齢者大学は、高齢期における学びと交流を通じて、生きがいと健康を育み、地域社会への貢献を目的としている。 生涯にわたって学び続ける場、交流の場として充実を図り、今後も高齢者大学を継続していきたい。
人生 100 年時代に合わせた教育・学びの必要性。現状は昔の枠組みのままで変化に対応できていない。高齢者大学では、学習を通じた自己発見や生き抜く力の獲得が必要であると考えている。自分で課題を見つけ、クリアしていくことは年齢関係なく人間の成長。そういうことを身に付けていく場が高齢者大学だと感じている。今はそうではない状態だと思っている。	意見のため回答なし	【教育部】 高齢者大学については、講座アンケート等により学生の意見を伺いながら、今後も新たな学びの機会や幅広い学習の場を提供していきたい。

参加者	市長	対応方針
高砂市の教育大綱の内容がとても好ましいと思って拝見。 デジタル教育に関し、外国(ノルウェー)が学力低下などの悪影響を鑑み、小学低学年でデジタル利用制限を導入した。日本でも 2030 年からデジタル教科書導入が進むが、紙教材とのバランスをどう考えているか。	私の意見としては、デジタル教育は重要だが、全てをデジタルに置き換えることは適切ではないと考えている。デジタル化が進んでいく中で字が書けなくなっていくなどの弊害もあるので、ハイブリッド型でバランス良く進めるのが望ましいと思っている。AI の進展も踏まえ、自分で考える力の育成が一番必要と考えている。	【教育部】 今後の制度設計を踏まえ、「紙の教科書」、紙とデジタルを併用する「ハイブリッド型教科書」、「デジタル教科書」などの形態を視野に入れ検討を行っている。デジタル利用制限を行っている海外の事例や、国内での先行導入自治体における実践データ、健康面(視力や集中力など)や学習効果への影響について詳しく調査・研究を進めていく。
不登校のこどもの学習支援に関して。 のびのび教室では、学習するには自力でやるしかないという状況。学校には行けなくなったが、勉強は嫌いではないタイプのこどもには、家庭教師をつけたがお金がすごくかかる。 学校にお願いをしてオンライン授業をしてもらったことがあるが、環境・時間調整のやりとりで疲れてしまい一度しかできていない。 もっと簡単に学校の学習にオンラインでアクセスできる仕組みを作してほしい。将来学校に戻れたらと思っているので、オンライン授業を取っ掛かりとできればと思うが、いかがか。	貴重な意見として受け止めている。 不登校児への学習支援の方法やオンライン活用について持ち帰り、内部で検討し、家庭と学校の連携強化に努めたい。 相談・対応の充実も図る。	【教育部】 教育支援センター(のびのび教室・サテライト教室)では、オンライン授業を受けることや、ドリルソフトを活用した個別学習が可能である。より確実に不登校児童生徒や保護者に伝わるように、周知方法の工夫・改善を行う。 オンラインで授業参加する教科や時間等については、在籍校との調整が必要であるため、環境設定や時間調整で負担がかからないように、いつでも好きな時に自分のペースでアクセスできるドリルソフトや Google classroom の活用方法を改善し、学校とのつながりを感じられるように工夫する。
部活動の地域展開に関し、地域からこどもたちに関わろうとしてくださる方に対しての道徳的な教育なども市の人権推進室などを活用しながら行ってほしい。スポー	地域移行は大切だが、地域の方々に無理強いするのではなく、こどもとの関わりを大切にしたいという気持ちのある方に参加してもらいたい。	【教育部】 地域クラブは高砂市においてヒアリングを実施し、適正な団体として認定していく。認定要件項目に代表者及び指導者等は、

参加者	市長	対応方針
ツ技術だけでなく人間性を育めるような、こどもたちが将来素敵な人間になるような、大人たちへの教育の企画もいただけたらと思っている。	地域・学校・こどもの三者が良好な関係で安全に活動できる環境整備に努める。今後も意見交換・合意形成を大事に進めたい。	指導者研修を受講すると定めており、研修は人権・道徳等の教育的意義の継承・発展する内容を検討している。

フリートーク

参加者	市長	対応方針
市民病院の新築にかかる費用やランニングコストが増える懸念。 指定管理制度の導入で赤字解消を期待しているが、新しい病院建設が本当に必要か、他の公共施設の老朽化もある中で財政負担が心配。 高砂市で唯一 1000 人入れるキャパシティのある文化会館をつぶしてまで病院を建設する意味は。	市民病院については、7 年前の公約で公設公営で進めていたが、コロナ禍での運営状況は黒字だったものの、現在は赤字補填の必要があり、指定管理を委託し財政負担軽減を目指すこととなった。 市民病院は、東播磨医療圏域の中で回復期緩和ケアを担う受け皿として必要である。 文化会館は築 40 年以上の建物になっており、いずれ建替を計画するものとなっていた。人口減少を踏まえて、ダウンサイジングを検討中。ハード面の広域連携も必要であると思っている。	【政策部】 現在の市民病院は老朽化が進み、今後も安全で質の高い医療を提供していくためには、建替えが必要。一方で、新病院の建設には多額の財源が必要となる。人件費、物価の高騰等社会情勢によるものは考慮すべきであるが、設備や諸室設定の影響により建設費が膨らむことのないよう意識して取り組むことが重要であると考えている。 指定管理者制度の導入により効率的な運営を図りながら、将来にわたり市民が安心して医療を受けられる持続可能な病院づくりを進めていく。
文化会館の件。1000 席以下になると採算がとれないので民間は借りない、不利になる。 中途半端な施設建設ではなく、民間基準に合うしっかりした規模の施設を望む。	意見のため回答なし	【協働部】 新たな文化施設の規模については、今後も人口減少が見込まれる中、敷地面積、現状のホール利用実績等、建設コストの抑制や管理運営など、総合的に勘案し、今後、基本構想や基本計画において、「市民ニーズを考慮した座席数」となるよう、検討を進めていく。
学力テストの結果公表状況についてどうなっているか。	これまでの学力の把握は教育委員会が行っている。国語力の重	【教育部】 市役所窓口で学力分析リーフレ

参加者	市長	対応方針
高砂市の義務教育の国語力が全国平均より低い傾向がある。国語力を中心に力を入れてほしい。失敗や不具合はまじめに向き合って分析しないと同じ繰り返しになる。お願いしたい。	要性を認識しつつ、市長が具体的な指示は難しいものの、教育長や学校と協働しながらこどもの学ぶ力の向上、多様な交流や意見交換を進めていきたい。	ットを配架し、各校にもリーフレットを保護者向けに配布している。市HPにおいてもリーフレットを掲載している。令和 8 年度の結果についてもよりよい情報公開となるよう努めていく。 アウトプットを通した教科を横断した学習機会を重視することで国語科を起点とした言語力、表現力等の育成を進めている。
高砂市の学力の件。令和 7 年度は全国平均より国語・算数・理科どれも低かったように思う。探求的な学びについては大切だと思うが、そもそもの学力が低いというのはどうなのかと思う。2030 年から個別最適な学習が進められるということだったように思うが、全体的な底上げができないのでは。	意見のため回答なし	【教育部】 探究的な学びと国語・算数・理科などそれぞれの教科を別個として考えるのではなく、相乗効果が得られる学習指導の在り方について各校に授業改善を促すとともに、研修などを通じて主体的で対話的で深い学び、個別最適な学び、協働的な学びを教育委員会として伴走支援していく。
放課後デイサービスの利用条件への疑問。 高砂市では不登校児は利用できないと聞いているが、隣の加古川市では不登校でも利用可能とのこと。市による対応の違いについて聞きたい。	加古川市の実態を確認のうえ、高砂市としても不登校児の利用可能性について検討したい。 不登校のこどもへの対応や、のびのび教室に通っていたから放課後デイサービスを利用できた事例も踏まえ、こういった形が市として望ましいのか検討したい。	【福祉部】 高砂市においても、加古川市と同様に、厚労省ガイドラインに従い不登校の解消に資すると判断される場合は、不登校児の放課後等デイサービスの利用は可能である。
高砂駅南のまちづくり計画について。まちづくり協議会で 3 年ほどの協議を経て作成された計画案が急に市長決裁により事実上市街地再開発の検討を中止し街路整備優先に変更されたことへの事前説明不足を指摘。 建築費高騰やデベロッパ不足の	事前説明と相談がなされていなかった件について、担当部に確認をさせていただき、説明させていただく。理由があって中止にしている部分があると思うのでその点も一度確認をして説明する。	【都市創造部】 発言者と面談し、検討中止の考え方について説明する。 (R8.8.7 面談実施)

参加者	市長	対応方針
理由を上げられているが、20～30年先の長期事業であることや周辺自治体の再開発事例も踏まえ、疑問に思う。 市は決めてから説明するのではなく、事前の十分な説明をしていただきたい。 県の都市計画決定に合わせて、再開発事業の決定をしていただきたい。 高架事業より前にアクセス道路を先に着工して完成させた方がいいのでは。	全体計画の中で、アクセス道路と高架事業のどちらを優先していくかというのは、今後、地域住民に配慮しながら検討し、進める。	
地域の活性化・賑わいづくりは重要であり、人口増加が教育問題の改善にもつながるため積極的に取り組んでほしい。	意見のため回答なし	意見のため回答なし

4 参加者のご意見・ご感想（概要）

アンケートの自由記述に記入いただいた内容です。

大切なテーマでのタウンミーティングでしたが参加者が少なく残念でした。ありがとうございました。
質問の時間がもう少しあっても良いと思う。直接思っていることを伝える場はとても良い機会であると感じる。最初のパワポの内容がとてもざっくりだったため、具体的な事例、数字をふまえた内容にして欲しい。
きくだけのつもりだったが色々話せてよかった
・義務教育学校が遅れているので、統廃合は旧町（連合会）の枠にとらわれずにスピード感をもって進めていただきたい。 ・全国テストの結果を公表してほしい。自省と子ども達が自ら自覚して育つように ・本屋とのコラボなどの支援
20年前、1学年5クラスの小学校から他市の2クラスの学校へ転校した。その際高砂の学校は教育がされているんだと実感したとともに、人数が多かったので、運動会や音楽会は迫力があって楽しかったとも思った。少人数の学校では、そうじの時間1～6年生のたてわり班で行っていて、少人数ならではの工夫だったのかなと今では思います。（多くの人と交流するため）
子供にはいろいろ多様性のある子がいるが、それぞれに合わせた教育環境が整理された対応ができていると感じた。
どの案件がどの部署の管轄なのかがすぐに分かるAI等を使ったフローチャートなどあれば効率的になるかとも思います。高砂アプリなんかを開発して企業を巻き込んだら財政への効果も多少なりともあるかとも思います。
個人的な質問にもご丁寧にお答え頂き、とても貴重な時間となりました。どんどんこのような機会を作って頂きたいと思います。ありがとうございました。
曽根駅周辺整備 便利で安全になります。曽根駅で降りてみたいなと思える様な人を集めれる周辺整備に！
初めて参加させて頂いたがとても良い勉強になった。また意見交換の場になった事を感謝しています。課題は多いと思いますがこれからも高砂市で明るく子育てしたいと思った。ありがとうございました。
ありがとうございました
タウンミーティングの開催ありがとうございます！本日の内容について、1つ位は市長のこれは持帰り決断実施があればと思います！参加したかいがあります。
多くの意見と市長のていねいな回答 充実したタウンミーティングだと思いました
色々な参考になる意見・考え方が判って良かった
（阿弥陀地域交流センターの）多目的ホールの机が古いので新しくして欲しい。老人クラブで月1回役員会、月2回カラオケを中心とした交流会で利用しています。
市長としてだけではなく、市長個人のご意見もお聞きして親しみを感しました。次回も参加したいと思います。日ごろ思っていたことを言えました。ありがとうございました。

小人数のタウンミーティングでしたが、参加者の活発な多岐にわたる質問や意見もあり有意義な時間でした。ありがとうございました。
県立高砂高校を 50 年前に卒業。3 年間高砂市には大変お世話になりました。ありがとうございました。楽しかったです。
参加人数が少なかった。高砂地域交流センターでやっていた時はもっといたと思う。（駐車場の関係でコーナーなのかもしれないが）公共施設のあり方のワークショップや都市計画の説明会も人が少なかった。PR 不足では。
子どもの教育に対しての話がしたかったのに高齢者大学の話が長くて残念に思った点です。「教育」というひとくくりではなく、「子ども」「高齢者」に対する教育で分けた方が良かったかもしれません。子供の学びの機会の確保はどのような状況の子にも必要だと思うので市と地域と連携してすすめていきたいです。地域の中にあるマンパワーをもっと子供たちに循環できるような学びが必要で、例えば法律、社会保障を含めた生きていくのに必要な学びを得る機会もほしいなと思います。
今回のタウンミーティングを通して、新しい時代の学びに対応した教育環境の整備が進められていることがよく分かりました。子供の教育で大切なのは勉強だけでなく人を思いやる心や、感謝の気持ち、挨拶や礼儀、人としての基本を身に付けることが大切だと思います。これからも高砂市の今後の教育について、市民との対話の場を継続し、多くの人に市政に関心をもっていただけることを期待しています。ありがとうございました。
都市創造部長の説明待ってます。
参加人数が増えれば、もっといろんな意見が聞けるのかなと思う。今年は教育長の意見が聞けなかったのが残念です。
生涯教育の大切さを実感しています。やる気、意欲を持った方々が入学されています。人生 100 年時代、気持ちよく学べるように環境を整えて頂きたい。
前回の質問の回答がされなかったのが残念。計画よりも原状の正確な把握が肝要と思える。全国テストの結果と分析に公開を希望。
先日、公共施設のあり方に関するワークショップと都市計画の説明会に参加しました。 まず公共施設のあり方では、学校は今後複合化され、地域コミュニティや町の活力の核になっていくと感じました。一方で、統廃合によって学校がなくなる地域が出ると、その地域の活力が失われるのではないかという不安も感じています。 また、都市計画の説明会では、山電高架化や駅周辺整備、賛否はありますが播磨臨海地域道路などのインフラ整備に加え、高砂駅から荒井駅周辺へ都市機能を集約していく説明がありました。 学校の適正配置については、今回の議論の対象ではありませんでしたが、高砂地区では今後、学校再編が進む可能性もあると感じています。 そのため、学校のあり方についても、公共施設のあり方や都市計画と一体的な視点で議論していくことが重要ではないかと感じました。 学校は教育施設であるだけでなく、地域コミュニティの拠点として重要な役割を担っています。また、大

きなインフラ整備が進められる地区であれば、それらと合わせて学校施設の整備や教育環境の充実にも取り組み、子育て世代に「この地域で暮らしたい」と思ってもらえるようなまちづくりにつなげていく視点も必要ではないかと感じています。インフラ整備と教育環境の充実を一体的に進めることで、子育て世代の定住促進や地域の活性化につながる相乗効果が期待できるのではないのでしょうか。

仮に学校再編が必要であったとしても、例えば小学校は荒井地区、中学校は高砂地区というように、それぞれの地域に学校を残し、地域の核を維持していくという考え方も一つの選択肢ではないかと考えています。

また、学校のあり方、都市計画、公共施設の再編などが、それぞれ個別に議論されているように感じており、高砂町が20年、30年後にどのような姿を目指しているのか、市民には見えにくいと感じています。これらを一体的に捉えた将来像を示していただくことで、市民も将来のまちづくりの方向性を共有し、より前向きに議論へ参加できるものと考えます。

市長、スタッフのみなさま、おつかれさまです。配信の最後の方しか参加できなかったので回答が全体の感想ではなくて申し訳ないです。

それと今から書く内容がタウンミーティング内で話されていたら被ってしまうのですみません。

阿弥陀地区は国道2号線より北側は田園風景が広がり高御位山を間近に望める自然豊かな土地です。しかし土地の利用方法が限定されているためか田畑を埋めて作られる建物は、かなり前から鉄くずや産廃をうず高く積み上げたようなものばかりが目立ちます。

私の子供の頃に比べて景観がとても悪くなり、人の口に入るものを作っている田畑の横で雨水などで流れ出る水や粉じんなどの汚染も気になります。

だからといって宅地にしてしまい田畑を無くして家々がたくさん建ってしまうのも大雨時の一時的な雨水の貯留場としての役割、気温上昇の防止の点などからも良いものとは思えません。（夏の熱帯夜に加古川や姫路から阿弥陀に車で帰ってくると窓から入ってくる風は明らかに体感温度が下がります）

日本全体が人口減少しているのに家ばかり建てても仕方ありませんし。

これ以上殺伐とした風景が広がる前に、阿弥陀地区の豊かな自然環境に影響が少ないもので、上手く農地や耕作放棄地を利用する方法はないのでしょうか？

地域の皆さんが阿弥陀地区の特産品とするため数年前からブルーベリー栽培などをされているようですが、それらを活かした「道の駅」など地域産業や雇用が活性化するような事業はできないのでしょうか？以前うわさではありますが阿弥陀に「道の駅」ができるかも？のような話をきいたこともあります。その後は立ち消えてしまったのかききませんが。

最近が高御位山への登山客向けに農産物や燻製など特産品の小さなお店や飲食店が個人経営や小さな団体の経営でポツポツできてはいます。

せっかく播磨地区で知名度のある「鹿島神社」もありますし、すでに大きな幹線道路もあって集客集金効果が上がると思います。人やお金が集まれば次の地域活性化のアイデアも出やすくなり実行しやすくなると思います。

自然環境や住民の穏やかな生活を守ることと地域の開発のバランスを取ることは大変難しいことかと存じますが、何とぞご検討をよろしくお願いいたします。

タウンミーティングを通じて子供や教育に対して熱意ある市民がいると感じた。その人たちが活躍出来るような学校作りが必要と思った。